

第4回湖南省産業振興戦略推進会議

議事録

■開催日時：令和元年12月11日（木） 午後2時00分～午後3時53分

■開催場所：湖南省共同福祉施設1階大会議室

■出席者名：

《委員》湖南省商工会 会長 上西 保
湖南省工業会 会長 園田 英次
甲賀農業協同組合 代表理事 専務理事 田村 安佐
湖南省農業振興協議会 前会長 小島 孝市
一般社団法人湖南省観光協会 理事 北島 輝人
一般社団法人湖南省観光協会 理事 武村 みゆき
㈱滋賀銀行甲西中央支店 支店長 戸簾 和俊
公益社団法人湖南工業団地 前会長 甲斐切 稔
滋賀県立甲西高校 校長 岸本 英幸
近畿経済産業局地域経済部地域開発室 室長 谷原 秀昭
国立大学法人滋賀大学 社会連携研究センター 特任教授 近兼 敏
滋賀県立大学 人間文化学部 准教授 塚本 礼仁

《事務局》

建設経済部 産業振興戦略局 次長 山元 幸彦
建設経済部 産業振興戦略局 商工観光労政課長 坂田 晃浩
建設経済部 産業振興戦略局 商工観光労政課 主幹 本井 義久
建設経済部 産業振興戦略局 商工観光労政課 主事 寺村 憲人

《委託事業者》

㈱しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部 部長 稲木 健
㈱しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部 主席研究員 志賀 文昭

■会議内容

1. 開会

2. あいさつ

湖南省産業振興戦略推進会議 近兼 敏 会長

3. 委員紹介・事務紹介

会議出席者数は12名。

湖南省産業振興基本条例第18条第2項の規定により、会議成立の報告。

4. 議事

(1) 湖南省産業振興ビジョン策定に向けて原案検討

(議長)

- ・それでは、議題の湖南省産業振興ビジョン策定に向けて、原案の説明を事務局からお願いします。

(事務局)

- ・今年の1月、3月、10月に産業振興戦略推進会議を開催し、その後、各委員からの意見を事務局で整理した。その内容、意見を踏まえ、湖南省産業振興ビジョンの原案および実施プランを提案したい。本日は、この案をブラッシュアップしていきたいと考えているので、多様な意見をいただきたい。なお、中身の目標値については暫定のもので、再度検討し設定していきたいと考えている。
- ・スケジュール表をご覧ください。本日の第4回目の会議の後は、第5回目の会議を来年の1月から3月に開催したいと考えている。そして、パブリックコメントが今後控えており、その後策定の方角で進めていこうと思っている。しかし、各委員の意見をすべて聞くことができない状況もあるかと思うので、もう1回、会議を開催するかもわからないので、その際はよろしくをお願いします。
- ・それでは、産業振興ビジョンの原案および実施プランの詳細については、委託事業者のしがぎん経済文化センターから説明をお願いします。

(委託事業者)

- ・1ページの第1章にビジョン策定にあたっての背景、趣旨の説明がある。最初のフレーズでは、市の産業の変遷を書き、次は最近の社会変化、いわゆる少子高齢化等の問題を列挙。続いて、産業振興自体の重要性とはどういうものがあるかを簡単にまとめ、昨年3月に制定された「地域産業振興基本条例」について簡単にふれてい

る。次のフレーズでは、その条例のポイントと本ビジョンをその中で策定するというのを改めて書き、最後に、このビジョンと総合計画との関連性を書き、本ビジョンの方向性を簡単に説明している。

- 右の2ページの図は、ここで第2次総合計画と基本条例と本ビジョンの3つの関係をイメージ図として表している。上に総合計画、下に基本条例、真ん中に本産業振興ビジョンがあり、両方と関係しているということを示している。
- 3ページは、計画の期間。これは前回も説明したが、計画期間は総合計画の10年間に合わせるということが1点。それから、下のグラフにもあるように、前期、後期で各5年間に分け、総合計画の進捗度合い、修正といったものを反映して進めていきたいということで、時期を総合計画とは若干ずらして設定している。そして、最後には見直しの期間を設ける。
- 次の4ページからは「主要産業の現状と課題」で、ここから13ページまでは前回の第3回の会議で説明したので詳しくは言わないが、まずは現状分析で「地域経済循環図」がある。下のグラフはやや専門的すぎてわかりづらいので、もう少しわかりやすく加工していきたいと思うが、地域経済循環図では生産面でみて第2次産業が強い産業構造になっている。また、地域経済の自立度をあらわす指標をみると、県内でも7番目に高く、この地域は非常に自立度の高いという地域だということがわかる。
- 次の産業構造は、付加価値額でみると製造業が半分強を占め、滋賀県でも5番目に高く、全国と比べても高いということ。製造業に次いで高いのが運輸・通信業、その中でも道路貨物運送業は県内でも3番目の高さになっている。製造業では、製造品出荷額でみると、輸送用の機械器具製造業が一番多いが、常用従業者数ではプラスチック製品の製造業が一番多い。
- 次の7ページは農林業。農家数は310戸、うち専業農家は52戸で、第2種兼業農家が239戸で77%、これは周辺の市町に比べても非常に高い数字。主な産出額をみると、米が半分強を占め、近隣の市町と比べると産出額は最も少なく、逆に米の割合が高いということが特徴。林業では、森林面積を所有形態別にみると、私有林が9割強を占めている。
- 8ページは商業。年間商品販売額でみると、卸売業、小売業ともに2年前に比べて増加している。9ページは観光で、年間の観光入込客数を直近の数字でみると、62万6,000人で、残念だが県内では14番目で、水準が低い。目的別でみると、買い物・食事等が多く、次いで温泉・健康となっている。月別でみると、紅葉シーズンの11月が最も多く、冬の1月、2月が少ない。右のページで主要な観光地をみると、「ここびあ」「十二坊ゆらら」「湖南三山」などが全体の約7割を占め、ここに集中している。とくに「ここびあ」が3割強で最も多い。あとは「ゆらら」「湖南三山」と続く。

- ・次に課題分析で、現状分析に基づく課題分析。これも前回説明したところで、強み、弱み・課題も前回の会議を受けて整理をしたもの。右の12ページは、この推進会議で出た意見に基づいて、弱み・課題を整理した。追加したところをいうと、下の表の②「企業の定着について」の一番上にある「研究機関が併設されたマザーファクトリーの誘致が不十分」は、前回、この会議の中で、ある委員から出た意見を反映して、ここに入れてある。
- ・次の13ページは、社会動向による将来分析。いわゆる時代の流れ、社会環境の変化といったところから将来的な外部環境要因を整理し、産業振興にとっての機会、チャンスや、逆に脅威となるものをまとめて整理している。もっとたくさんの機会やチャンス、脅威もあるだろうが、湖南省の産業振興にとって直接・間接的に関係するところを絞り込んで列挙している。ここまでが前回の会議で説明し、なおかつ修正した部分ということ。
- ・本日は、この14ページ以降をとくに説明するので、議論していただきたい。
- ・まず、「第3章 基本方針の体系」について。このビジョンの上位計画である総合計画に将来像が定められており、「ずっとここに暮らしたい！『みんなで創ろう きらめき湖南』」というものを実現するために、本ビジョンは、目指すべき方向性を基本ビジョンという形で定めたいということにしている。
- ・基本ビジョンは、【地域特性を活かした「湖南省型の産業モデル」の創出】という方針を掲げたい。これは簡単にいうと、湖南省の自然環境、社会環境、産業環境といったものの地域特性を活かしながら、域内の消費の拡大、域外からの人やモノ、資本などの流入を増やすという仕組みをつくって、地域内の経済循環の向上を図るというモデルをつくっていかうということ。これは、総合計画のまちづくりの目標の3番目に「活気あるまちをつくろう」というものがあり、この中に3つのポイントが示されていて、1番目が「企業誘致や新たな産業の育成」、2番目が「交流人口の拡大」、3番目が「就労機会の創出による活気あるまちづくり」というものが柱になっている。これらを受けて5つの基本ビジョンを設定し推進していきたいということ。総合計画と基本方針との関係はイメージ図に記載している。
- ・「2. 全体の体系」では、この基本方針と基本ビジョン、具体的な施策、実施プランの関係性を表したのが、その体系図。基本方針の下に5つのビジョンがあり、それぞれの基本ビジョンの下にそれぞれ3つずつの具体的な施策がある。そしてそれぞれの具体的な施策の下に、具体的な実施プランというものを2つないし5つのプラン、それぞれ設定しているという形になっている。全体像をA3の大きな紙で配っているのだから、これで全体像がわかると思う。基本ビジョンが5つあり、それぞれ3つの具体的な施策があり、それぞれの具体的な施策に実施プランが2つないし5つ設定されているという体系になっている。
- ・次に、15ページの「第4章 基本ビジョン、具体的な施策プラン、目標指標につい

て」の説明を聞いてほしい。まず、基本ビジョンは、湖南省の産業振興にとっての強み（S）、弱み（W）、機会（O）、脅威（T）といった要因を分析して、「SWOT分析」によって5つの基本ビジョンを設定した。18ページにSWOT分析の簡単なチャート図がある。左側に第二次総合計画の施策として大きく農林業の振興、工業振興、商業振興、観光振興、雇用問題と挙がっていて、それぞれの項目について、湖南省の特徴である強み（S）、弱み（W）、将来の見込みについての機会（O）、脅威（T）を並べている。こういったものをあわせながら、5つの基本ビジョンをここに設定した。

- ・15ページに戻り、それぞれの基本ビジョンを簡単に説明したい。まず、基本ビジョン1は「企業進出や定着のための規制緩和、インフラ整備」で、企業誘致、進出企業といったものをイメージしたもの。新しい企業の進出や既存企業の定着といったものに必要と考えられる、例えば工場立地法の緩和、そして新たな産業団地開発のためのプロジェクトチームを設置することや操業環境のニーズ把握といった産業基盤の整備。前回の会議でも出ていたが、研究機関が併設されたマザーファクトリーの誘致の積極的推進、交通インフラの整備、公共交通の利便性向上といったものを行って、企業誘致を積極的に推進していく。
- ・基本ビジョン2は「地域内企業の連携強化と起業・第二創業支援」で、地域内企業をイメージしてそれらの連携強化と起業・第二創業支援を設定する。市内の立地企業、中小企業者が技術協力や人材交流をすることによって、新たなビジネスチャンスの創出を図り、湖南ブランドのものづくり、商品開発を推進するということや、地域資源を見える化することによって、創業者を受け入れる等々の仕組みをつくって、女性の起業をはじめ、そういった起業をするための体制を整備するということ。
- ・基本ビジョン3は「海外事業展開の支援や国際競争力の強化」で、まさに国際化支援ということ。地元の中小企業者の海外事業展開を支援するということで、関係機関等のネットワークを活用して多様なものづくり産業の強みをさらに増強することで、国際競争力を強化する仕組みを整備するということ。
- ・ビジョンの4番目は、市・農商工と観光をネットワーク化し、地域資源の活用と創造するということにした。湖南省の地域資源を活用するというビジョンで、新しい体験型の観光の企画・運営、地域活性化のための農福連携の推進といった新たな産業振興の創造を図るということや、市のサポートのもとで「みらい公園湖南」の有効活用を通じて、農商工が連携して6次産業化を推進する、そのためのビジョンということ。
- ・最後の5番目のビジョンは、「人材の育成と職場環境の改善による雇用の安定化」ということで、雇用の問題。市内の立地企業、中小企業者での就労機会の創出、人材育成による地元定着を図るということで、女性や高齢者、外国人材の雇用を推進していくこと。併せて、働き方改革やワーク・ライフ・バランスといった職場環境

づくり、障害者雇用も推進していくということ。

- ・次に 19 ページ。このビジョンと第二次総合計画との位置づけ、関係性といったものを表したのが下の図。第二次総合計画が左にあり、それには5つの柱があり、目標指標も右側にそれぞれ5つある。縦に産業振興ビジョンがあり、それも同じように基本ビジョンが5つあって、評価指標については後ほど説明するが、それぞれ2つずつ設定した。そういう意味で、総合計画とリンクしているということをお知らせしてもらえればと思う。
- ・次の 20 ページは具体的な施策で、5つの基本ビジョンを推進するために具体的な施策をそれぞれ3つずつ設定した。これは前回の会議の最後に委員の皆さんに提示し、意見をもらった表で、詳しくは後ほどご説明する。
- ・21 ページは、A 3に拡大し印刷し配付したが、5つの基本ビジョンの下に3つの具体的な施策があって、さらに実施プランを2つから5つ設定した。詳細は後ほど「実施プラン」という冊子で説明したい。実施プランは前回の会議やその後の委員の皆さんからの意見などを反映し作成した。
- ・次の 22 ページは、目標指標で、基本方針の目標に対して1つの指標といったものを設けたいということで、このビジョンの中では最上位の目標の指標になると思う。これは、下のグラフの経済活動の「市内総生産」という指標を使いたい。国では、2018年6月に未来投資戦略を立てた。その中で2020年度の名目のGDPを600兆円にするという目標が掲げられ、そのためには、平均成長率を毎年2%増加させる必要があるということだった。これに合わせて、湖南省の経済活動の市内総生産も同じように2%ずつ毎年増加させていこうという目標を設定したということ。この市内総生産は、市全体の経済規模が拡大していくのか、縮小しているのかといったことがわかる物差しとして適当と思われるので、その指標を使用するという。ちなみに、直近の数字でいうと2015年度は2,852億円で、これを毎年2%ずつ増加させるということにすると、2020年度では3,140億円と、基準年に比べて大体、1割増ということになる。そこからさらに2024年度までに毎年2%ずつ増加させると、基準年から約19%、2割アップの3,400億円、最後の2029年度には3,750億円ということで、基準年から比べると31%増、3割アップになるということ。
- ・続いて 23 ページ。このビジョンに基づいたそれぞれの施策の進捗度合いを評価する指標、いわゆる「KPI」(Key Performance Indicator、重要業績評価指標)みたいなものを設定していこうと考えている。総合計画との対応で見ると、総合計画の「活気あるまちをつくろう」というところの「農林業の振興」などの5つのところこの基本ビジョンとの関係性をここに表示している。
- ・次の 24 ページに詳しい進捗の指標があるが、データ自体は、現時点でとれる指標を設定し、状況によっては見直し、継続的な評価といったものが必要になってくるので、適宜変更していく可能性もある。定期的なアンケート調査や企業訪問などの

モニタリングといった定性評価も併せて行っていく必要があると思っている。1番目の「企業進出や定着のための規制緩和、インフラ整備」という基本ビジョンについての指標は2つ。1番目は企業単位の付加価値額で、基準年は直近の2016年の626億6,900万円として、目標年度2020年度、24年度、29年度にそれぞれ設定をした。目標設定の根拠としては、2016年までの過去5年間の年平均伸率を計算してみると3.9%減だが、マイナスでは具合が悪いので、プラス2%増として2020年度以降の目標に設定した。2番目の指標はJR3駅の1日当たりの乗客数で、駅前の活性化などを図り、乗客数を増やしていこうということ。直近の2017年度は6,268人で、これを2029年度最終年度には7,063人まで持っていきたいということ。

- ・次の2番目のビジョンについては、まず商工会の経営指導員の巡回指導や窓口指導の指導件数を挙げた。これは、今までの5年間でみると大体年率6.6%なので、7%増ぐらいで計算し、最終9,445件までにしたい。2番目の指標は、法人市民税の納税者数で、その中でも1号法人、いわゆる一番規模の小さな、資本金でいうと1,000万円以下、従業員数では50人以下の法人。要は、創業・起業がどれだけ進んでいるかという部分の指標。直近では0.4%増ということなので、0.5%増で直近の841人を884人まで持っていこう、大体40人ぐらい増やしていこうということ。
- ・3番目の海外支援。まずは海外事業展開や国際競争力の強化のためのセミナーを開催していくということ。現在、市ではそういったセミナーがないので、年1回程度、企画、開催していこうという目標。2番目の目標は、市内の事業者から、栗東にある県の工業技術総合センターの技術相談や試験機器の利用件数で、これらを利用して国際化支援に取り組んでもらおうというもの。これも年率6%ぐらいの増加ということで年間186件の利用件数を目標に挙げている。
- ・4番目のビジョンの目標では、まずは市内の観光入込客数。2018年度で59万5,000人、それを目標としては年率5%増ぐらいということで、数字的には現在の60万人弱を100万人の大台まで持っていこうという計画。次の農業産出額は7.5%の実績に対して8%増ということで、現在、総額で8億9,000万円というところを24億2,000万円というところまで持っていこうということ。
- ・5番目のビジョンについては、ワーク・ライフ・バランス推進登録法人数、現在23法人ということだが、これを45まで持っていこう、毎年2法人ずつ登録をふやしていこうという計画。最後に、ハローワークでの新規の求人数。甲賀市とカウントは合算しているの、トータルでみるということが必要があるが、一般とパートの年度計ということで、これも年率大体3%増、1万9,400人まで新規の求人数を持っていこうという目標。
- ・続いて25ページでは、「第5章 重点プロジェクト」というものを考えている。これは、ここに掲げた5つの基本ビジョンを推進する際に、特に重点的に取り組むべ

きプロジェクトといったものを以下3つ設定したということ。ただ、これはあくまでもひとつの案で、今後、こういったものが必要かどうかということも、ここで議論していただきたい。また、委員の皆さんでテーマも含めて検討してもらいたいし、アイデアも出してほしいと思っている。

- ・1番目が「みらい公園湖南」。これを拠点とした新たな価値をつくり出すプロジェクト。2番目は、「湖南省企業ガイド」というものがあるが、これでビジネスマッチングとか求人などのリクルートといったものを促進していこうというプロジェクト。3番目が、事業用地の整備に基づく産業基盤強化プロジェクトというもの。
- ・26ページは、「第6章 推進体制と進捗管理」。推進体制については、幅広いネットワークを組んで、関係するものがすべてタグを組んでやっていこうということだが、市の中でも全庁的な体制づくりをし、市を挙げて産業振興にも取り組んでいくということと、地元の経済団体、教育機関、大学などとも連携を図って、柔軟性を持って推進していくということ。これはある意味で、冒頭申し上げた基本条例とも相通ずるところと考えている。
- ・それから、2番目の進捗管理。下のチャートにもあるが、よくご存知のPDCAサイクルを回して、より発展的に推進していくということを考えている。
- ・そして、次の27ページ以下はまだ未作成だが、用語解説、本会議委員の名簿、会議の開催経過といったものを最後に載せていこうと思っている。
- ・続いて、もうひとつの冊子の「実施プラン」の原案を説明したい。これは、先ほど手元に配付したA3の一枚物のペーパーの一番右側の実施プランを改めて別の冊子にしてまとめたもの。とくに前半部分の5年間のプランということなので、振興ビジョンとは別にして冊子にした。ページを繰ってもらくと、まず目次があって、実施プランとして5つのビジョンごとに実施プランがあり、最後に重点プロジェクトを挙げた。
- ・1ページは、ここに実施プランを示すということを書いている。その実施主体については、市、関係機関、民間、大学等というものを挙げている。こういった機関が連携をとりながら、このプランを推進していくということになるわけだが、市は国や滋賀県を筆頭に、この地域の関係機関、商工会をはじめ工業会などとタグを組んで、ネットワークを組んで推進していくということ。民間では市内の企業や個人事業者、金融機関、NPO、大学では、県内をはじめとする大学、短大、専門学校、高等学校などといったものが一緒になって進めてほしいということ。
- ・次の2ページは、基本ビジョンがどういう形で出てきたかということ、先ほど説明したSWOT分析のチャートで同じように説明している。3ページから、具体的な基本ビジョンと実施プランを見てほしい。まず、基本ビジョン1は企業誘致や進出企業をイメージしたものだが、「(1) 土地の有効活用とインフラ整備」といった具体的な施策に関しては、実施プランとしては5本設定した。①は工場立地法の緑

地面積率の緩和制度の創設ということで、規制緩和の問題。これは前回の会議で、ある委員から意見を出してもらったもので、それを参考に設定した。③具体的な立地ニーズに基づいた開発プロジェクトチームを設置するとか、④の企業立地促進奨励制度といったものを推進していくというようなプラン。それぞれ右側に、実施主体がどこかと書いてある。市だけでやるのか、民間と一緒にやるのか、あるいは関係機関と一緒にやるのかという実施主体のこと。それから、5年間の進行状況といったものを今の時点で計画的に挙げている。例えば①では、最初の年に実施して、後は継続して、5年目に見直す、②だと、最初の年は検討で、次の年に実施して、後は継続、最後は見直すというような形で進めていくというような考え方。

- ・「(2) 産業基盤の整備と企業誘致の強化」だと、例えば一番上の操業環境等に関する事業者アンケートを実施し、分析するという。④は、マザーファクトリーをはじめとする企業誘致の積極的な推進というものも項目として挙げている。これも前回の会議で、議長をはじめ複数の委員からでた意見を反映した。それから「(3) 道路交通網の整備とJR草津線の利用促進」は前回、ある委員から出た意見を反映しているが、①交通インフラの整備、幹線道路へのアクセス道路、周辺市町を結ぶ広域交通ネットワークといったものの整備というのを挙げている。また、それぞれのビジョンの下に、最後に「進捗評価指標一覧表」というのもあわせてここに挙げている。
- ・次の5ページは、基本ビジョン2、市内の中小企業者や起業・第二創業といったものをイメージしたビジョンだが、その1番目は「(1) 多品種小ロット生産などのニーズ対応型の事業展開支援」ということ。まさに地元の中小企業の一番の強みと思われる多品種小ロット生産といったものをさらに伸ばしていくための施策ということで、例えば、①経営相談の強化、経営支援制度の充実や、②ビジネスマッチングの推進といったものをプランとして挙げている。「(2) 相互流通協力、相互人材交流による湖南ブランドの確立支援」については、産学官金連携といった環境のもとで、立地企業、中小企業者相互に技術協力をして湖南ブランドのものづくり、商品開発を推進していこうというようなプラン。「(3) SDGsの視点に立った起業・第二創業支援」では、SDGsには17の目標と169のターゲットがあるが、その視点、その考え方を活用しながらソーシャルイノベーションの推進、社会課題解決型の起業といったものを推進していこうということ。これは、ある委員の意見なども参考にしながら入れた。それから、②には地域資源の「見える化」の推進と市民参加の仕組みづくり、市外からの起業者の受け入れや、起業者とともに歩いていく、進めていく伴走支援の仕組みづくり、支援体制の整備といったものを挙げている。この2つも複数の委員からの意見を反映している。
- ・7ページ、基本ビジョン3は、国際化支援ということだが、まず「(1) 海外事業展開の支援強化」で、実施プランの①にある彦根に開設された「ジェットロ滋賀」を積

極的に活用していくことを推進していこうということ。「(2) は多様なものづくり産業の強みを生かした国際競争力の強化」ということで、②の大学や「工業技術総合センター」といったところを活用しながら、国際競争力を強化していこうということ。「(3) 高度プロフェッショナル人材の確保、育成、活用」は、とくに海外事業展開、新分野進出、販路開拓、事業承継といった非常に大事な経営課題を解決するために、専門的なノウハウを持っている高度プロフェッショナル人材を活用して推進していく仕組みづくりを進めていこうというのがこのプラン。

- ・基本ビジョン4はまさに地域資源活用の部分のビジョンだが、「(1) 市内の観光消費額の増加」ということで、①の産業ツーリズム、ウェルネスツーリズムといった体験型の観光を推進していこうということ。これは、前回の会議では複数の委員からの意見を反映している。「(2) 「みらい公園湖南」の活用」は、「ここぴあ」と「HAT」、チャレンジ農園を有機的に運営することにより6次産業化を推進する、農業ツーリズムなどの波及拡大をしていくということで、地域産業活性化の拠点として一層充実を図っていくということ。これには、次のページの②だが、市内の工場、研究農場とも連携した6次産業の推進というものを進めていきたい。また、⑤の企業の工場見学を通じて産業ツーリズム等を波及拡大していくということ。(3)の具体的な施策では、「新規就農、農福連携の推進」ということで、取り組み内容については、ここはある委員からの意見で全面的に修正をしたが、伝統野菜、例えば「下田なす」や「弥平とうがらし」の市場創出、普及活動を推進しながら、米づくり中心から園芸・果樹の生産拡大を図るということで、多様な付加価値作物への転換を図っていく。あわせて、湖南ブランドを構築するという。さらに、GAP認証の取得支援といったものの体制もつくる、農福連携の仕組みもつくっていくということで、まさにスマート農業の普及拡大の検討を行っていくということ。この中身の実施プランとしては、①園芸作物の問題、最後の⑤伝統野菜の問題といったところも、ある委員の意見を反映したもの。
- ・12ページの基本ビジョン5、「人材育成、職場環境の改善」の部分の具体的な施策は、まず「(1) 人材育成・人材派遣の推進」ということで、とくに若者の地元定着といったことを推進するということを大きな柱にしていきたい。そういう意味では、③人材派遣事業の整備・推進、④「企業ガイド」によるマッチング・リクルートの推進というところを進めていきたい。「(2) は女性、高齢者、外国人材の活用促進」ということで、とくに人手不足に対応した女性、高齢者、外国人材の雇用促進を図っていくということ。右のページの(3)働き方改革は、ワーク・ライフ・バランス、障害者雇用の推進ということで、それぞれ実施プランを挙げている。
- ・最後の14ページは先ほど説明した重点プロジェクト。これはひとつの案ということでここに3つ掲げた。
- ・資料の説明は以上。

(議長)

- ・ありがとうございました。今、説明のあった湖南省産業振興ビジョン原案について、意見や質問を受けたいと思う。たくさんあるので、ページを繰りながら、気のついたところからいただきたい。

(委員)

- ・原案の9ページの(6)観光のところ、これは既に確認済みのところだが、気になっているところが幾つかある。まず、市内の年間観光入込客数があつて、その目的が、「都市型観光(買い物・食等)」「温泉・健康」「公園・テーマパーク等」「歴史・文化」という形で順位が書いてあるが、月別にみると11月は紅葉シーズンであるには違いないのだが、何でここにいきなり「紅葉シーズン」がでてくるのか。次に8月というのは何のキャプションもないことになっているが、敢えて紅葉シーズンとつけた意味があるのなら結構だが、「紅葉シーズンの11月」とするなら、8月も何かつけないと基本的にいかなものかと思う。
- ・また、10ページの観光地名に「ここぴあ」という表現がある。市としては「ここぴあ」はいいのかもしれないが、運営管理をしているJAとしては、この表現が正しいのか疑問。
- ・次に13ページ。外部環境要因の「脅威」のところの農林業の1番目の「高齢化による耕作放棄地の拡大」だが、高齢化だけではないので「など」を入れていただきたい。その表現が16ページや18ページにも出てくるので、統一してほしい。
- ・21ページの「4. 実施プラン」の4(2)②の「工場や研究農場とともに連携した6次産業化の推進」という部分で、「工場」は「企業」ではないか。工場と農場ということで対にして使われているなら、それはそれで結構と思うが。
- ・25ページ。「第5章 重点プロジェクト」の1番目の「みらい公園湖南」のところだが、「…拠点施設を核とし、地元農産物の生産・販売拡大といった6次産業化」というのは日本語になっていないと思う。「…地元農産物の生産・販売拡大を図るとともに、6次産業化を…」というような形にしてはどうか。この後にも「市内の工場や研究農場」というフレーズも出てくる。これも「企業」ではないのか。もう一つ言うならば、「など」と「等」が平仮名と漢字があつたように思う。整理、統一をお願いしたい。

(議長)

- ・ありがとうございます。今のところで回答できるところだけ、説明をお願いしたい。

(委託事業者)

- ・質問のすべてに回答はできないが、1点目の9ページの「紅葉シーズン」については月別でどんな観光地に行く人が多いかというデータがあり、前回、副議長からも質問をもらったことだが、それをみると、11月には「湖南三山」にたくさんの観光客が来られていることがわかったので、それで「紅葉シーズン」と書いた。逆に、8月は「十二坊温泉ゆらら」のオートキャンプ場を訪れている人が多いので、オートキャンプなどを入れてもいいかもしれない。そこは書くのだったら両方書く、書く必要がなければ両方とも外すというようにしたい。
- ・「ここぴあ」のことについては、市に話を聞きたい。
- ・21ページの「ビジョン4」の具体的な施策(2)②の「工場や研究農場と連携した6次産業化の推進」というところで、「工場」は「企業」ではないのかということだが、もちろん別に工場でなくてもいいので、そこは変更してもいいと思う。
- ・25ページの文章については、持ち帰りもう一度、見直したい。

(議長)

- ・10ページに「ここぴあ」を入れるかどうかということに気になっているのか。「ここぴあ」が観光地かどうか。

(委員)

- ・そういう意味ではなくて、一番多いから入れたのならよいのだが、「ここぴあ」だけの数字なのか。イオンタウンのビッグと「ここぴあ」を総称した言葉ではないのか。

(事務局)

- ・「ここぴあ」だけの数字。

(委員)

- ・J Aが市に報告している数字なのか。

(事務局)

- ・そのとおり。「HAT」もできたので、「みらい公園湖南」という考え方もできる。

(委員)

- ・それをすると、29年度と30年度で数字が違ってくるのでは。

(事務局)

- ・当然、その違いは出てくるが、そういう書き方でもいいのかと思う。

市としては「みらい公園湖南」という構想に基づいてやっていて、「ここぴあ」と「HAT」と「チャレンジ農園」の3つを合わせて観光入込客数の中に入れているので、そういう形で整理してもよいかと思う。

(委員)

- ・わかりました。

(議長)

- ・ありがとうございます。では、その部分を修正してください。他の委員はいかがでしょうか。

(委員)

- ・この産業振興戦略推進会議は計画やプランを立てる委員会ということだが、一番、大切なのはPDCAを繰り返すことだと思う。ここはそれを議論する場ではないのかという気もするし、それが一番大切ではないか。“ちゃんと書きました”“素晴らしい資料ができました”、しかし、絵に描いた餅に終わらせないために、それをどうしたらいいんだろうかと議論すべきではないのか。
- ・この戦略推進会議は10年間の期間だが、以前もあったのか。これは初めてか。

(事務局)

- ・はい、そうです。

(委員)

- ・これをいかに機能させるかというのが一番大切なのではないか。“これはこの部署で”と色々な役割があって、それは事務局で計画されているとは思いますが、このPDCAを繰り返そうと思えば、すぐたいへんだらうと思う。そちらはどのような進めていくつもりなのか。

(議長)

- ・これは原案なので、これをすべてやりますという形にはなっていない。今、話しているのは、例えばこれをどういう形で進めるか、あるいはもう少し選択しながらやるかとかの進め方のことだ。基本ビジョンが5つあるが、例えば3つのプロジェクトを優先的に進めるかとか、そういうことも含めて意見をいただいているところ。
- ・今後、これだけの項目をすべて、誰がどういうように責任を持ってやるかというところは、まだ何も決まっていなくて、今のところたたき台をつくっているところ。今日、これでまとまるかどうかはわからないが、皆さんに意見をいただきな

がら、これは場合によっては要らないかもしれないとか、あるいはやっぱりこれは追加したほうがいいのか、そういうことを話してほしい。

(委員)

- ・ 4 ページの「地域経済循環図」で、湖南省の地域経済循環率は 7 番目だが、ちなみに上位 3 位と下位の 18 番、19 番を教えてください。やはり、この「地域経済循環率」というのは上がるほうがいいのか、その市町を目指していかなければいけないから、それを書いたほうがよいと思う。
- ・ もう 1 点。22 ページの目標が「経済活動市内総生産」ということだが、人口減少や高齢化、人材不足といいながらこのような数値を挙げていていいのか。それを行うにはこういうことが必要だということが書いてあるのであればわかるが、国が 600 兆円の目標を持っているから 2% と書くというのは乱暴ではないかという感じがする。この 2 点を教えてください。

(議長)

- ・ 地域経済循環率の上位と下位について、今、回答できますか。

(事務局)

- ・ 1 番、2 番、3 番は、竜王町、多賀町、米原市の順番。下位については、今はわからない。調べて追加したい。

(議長)

- ・ 私もこの循環図をここに使うのがいいとはあまり思わなかったもので、もう少しわかりやすいものに替えてほしい。結局、どれだけ湖南省にお金が入って、どれだけ出ているかというぐらいのシンプルな図に替えた方がよいと思っている。

(委員)

- ・ 22 ページに関してはもう 1 点あって、そこにこういう施策が必要だということを書いても、国の施策だからどうしようもないだろう。

(議長)

- ・ これも事務局と話をしている、これは基本的に国の GDP の数値が入っているので、湖南省の実態に合っていない。できたら湖南省の実態に合わせて、もう一度検討してほしい。でないと、非常にわかりづらく、着地点が外れたら具合が悪い。他はいかがですか。

(委員)

- ・「人材派遣事業の整備、推進を図ります」というのはどういうことか。20 ページの 5 番目の「人材の育成と職場環境の改善による雇用の安定化」の(1)に「人材育成・人材派遣の推進」、それから 21 ページの③に「人材派遣事業の整備、推進」とあるが、人材派遣というのはどこから出てきたのか。細かいことが入っているかと思ったらそうでもないし、どういうところからこの項目が出てきたのか。
- ・それと、(2)の③の「外国人材の確保・活用促進」は、市が考えるビジョンの中に必要かということ。何かをするのだったらいいが、例えば、もっと勉強会を行って外国人の就労を増やすのだったらいいが、裏づけもなくただ書いただけだったら意味がない。

(議長)

- ・ありがとうございます。これはいかがですか。

(委託事業者)

- ・この地域で人材派遣事業を実際に行っている方々の状況をつかんでいないので、そのあたりも聞きながら具体的にどうところを進めていくかなど、内容を詰めていきたいと思う。また検討していきたい。現時点では項目として挙げたという段階。

(委員)

- ・当方も指定業者になり、厚生労働省の認定をもらっているが、事業して、整備して、推進するというのは、何をどのようにすることなのか疑問。「障害者雇用の推進」というのは、ある程度具体化した形でやらないと、ただ書くだけに終わってしまう。だから、法定基準に合った事業推進をやるとか、市がもっと前向きにやっていくとかいう表現であつたらいいが、単なる当てずっぽうで書いたらいいという表現になっているように思う。ここら辺の表現をもう少し考えてほしい。
- ・観光でも、「企業の工場見学を通じた産業ツーリズム等の波及拡大」というのは、この地域の製造業では企業がパーツや部品などをつくっているの、見学できるシステムがあるのは、これだけの工場があつても 2～3 社に限られていると思う。だから、特殊なケースで見学できるところはあるが、一般の人が入れるかなどの問題があるので、これをこの中に入れていいものか、あるいはもう少し考えた表現に変えたほうがいいと思う。非常に厳しいところなので。

(議長)

- ・ありがとうございます。例えば、「人材の育成と職場環境の改善による雇用の安定化」というところだが、この項目を入れたのは、元々、総合計画のところ「就

労機会の創出による活気あるまちづくり」というのがあったので、その部分から入れた。具体的な施策を入れていかないといけないので、そういう表現が入ってきたと思う。本来は、前回、委員の皆さんにアイデア記入表を市から配付したが、回答は2名だけで、他の委員の回答がなかったので、ここはある程度入れたほうがいいだろうということで、関連する項目を入れた。しかし、実際にできるかどうかわからないものを入れてどうするのかというところは、表現を変更していかざるを得ないと思う。

- ・他はいかがですか。できる限り数多く出してもらったほうがよいと思う。

(委員)

- ・2点ある。1点目は、「実施プラン」の原案の3ページで、「企業進出や定着のための規制緩和、インフラ整備」の実施プランの中で、例えば「具体的立地ニーズに基づいた新産業団地開発のプロジェクトチームの設置」とあるが、岩根に工業団地があり、それ以外に新しい団地をつくるというイメージか。
- ・もう1点は、5ページに「地域内企業の連携強化と起業・第二創業支援」、実施プランで「経営相談の強化」とか「ビジネスマッチング」、あるいは「事業承継」とあるが、これはあくまで市としての施策の中で、商工会とか金融機関に運営を任ずという形でいいのか、あるいはその次の「ジェトロの活用」とか「海外事業展開のためのビジネスマッチング」といったところは、敢えて必要なのか。企業がジェトロへ行ったらいいだけのことだし、海外企業とのビジネスマッチングは、例えば湖南省として積極的に香港で商談会などを催していく気構えがあるかなど、そういうところを一度、確認させていただきたい。

(委託事業者)

- ・1点目をもう一度、詳しく説明してほしい。

(委員)

- ・岩根に工業団地があるが、それ以外に何か新しい産業団地をつくる計画があるのかどうか。そのためのプロジェクトチームを設置するのは22年度に実施を考えているような意味合いなのかを確認したい。また、工業団地の中の、例えば緑地面積の緩和については、例えば緑地の割合が今まで50%で、それを40%にすることによって工場の増設ができるとか、多分そういう緩和だと思う。この新しい工業団地の開発プロジェクトチームというのは、全く違うところに工業団地をつくるのかの計画であれば、当方としても企業誘致などにも関与できるのかなと思う。

(委託事業者)

- ・計画自体はまだないと思う。これから、そういうニーズがあるのであれば計画を進めていくし、それを図っていこうということになると思うので、そういうプロジェクトチームを組んでニーズを探りながらやっていこうという流れだと思う。
- ・5ページの経営相談やビジネスマッチング、7ページのジェットロといった問題で、どれだけ市が関わっていくかというところは、何でも市が引っ張って行って、例えばビジネスマッチングをやるんだとか、ジェットロを使ってもらうんだということではなくて、関係者が協力しながら行う。場合によっては市が黒子になる場合もあるし、そのあたりは連携をとりながらやっていくことだと思う。だから、あくまでも主体というよりも連携しながらやっていくという形になるというように考えてほしい。

(議長)

- ・ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

(委員)

- ・先ほどに関連して12ページの「湖南省産業振興戦略会議の課題と分析」というのを見ていたら、「地域産業の発展には、慢性的に人手不足の企業が存在し、数人も融通しあえる仕組みが必要といった意見や…」とある。これは「意見」というような書き方でいいのかわからないが、もう一つ、その下に「…県内には日本語学校がないので、外国人材を呼び込み、受け入れる仕組みができていないこと、女性が起業できる制度や補助金がないことなどの意見がみられます」とあるが、これはどういうことか、ちょっと理解しにくい。「インターナショナルスクールを併設した学校」というような言葉で人材を確保していくとか、また、湖南省と企業が人材の確保を積極的にやっていくというのであればビジョンの中で考えられる。世界中どこへ行っても、主要都市ではインターナショナルスクールというのが必ずあり、日本人が行ってもそこに子どもを預けて教育を受けることができる。母国語で話してもイングリッシュで話しても子どもは成長していく。ブラジルでも韓国でもベトナムでもインターナショナルスクールは各市や町にある。湖南省がそういう外国人労働者をどんどん受け入れていけば、そういうビジョンを持って進めていくという考え方をしたほうが適切だと思う。

(委員)

- ・私は勤務で上海にいましたが、上海市の人口は2,400万人で、そこにインターナショナルスクールがあり、あるいは日本人学校がある。日本人が常に住んでいる人口が10万人はいるとか、そういうようなレベルの都市だと思います。この外国人材というのは、私の理解では、外国人実習生みたいな人を想定している。

(委員)

- ・東近江市に私立の学校をつくっている。ここから随分、生徒が通っている。だから、そういう教育も含めたビジョンを労働者のために本当につくっていくのなら「併設」だ。インターナショナルスクールを併設した学校をどこかにつくってやれば、そこへ通わせる。今後はベトナムやブラジル、南米だけではないと思う。「国際化」という表現をするならば、やはりビジョンはそういうことも考えていく必要があると思う。

(議長)

- ・多分、これは私が以前の会議で日本語学校をつくったらいかがという意見を言ったところに、いろんな尾ひれが付いたんだと思う。意図しているところと違う言葉がくっ付いているので、こういう表現になっていると思う。私が言っていたのは、“県内に日本語学校がないので、公立の日本語学校をつくったらいかがですか”と。なぜかという、今現在、日本国内には公立の日本語学校は、実は北海道に1校しかなくて、公立の学校をつくと文科省から補助金が出る。そうすると、日本語を学ぶ学生にとっては非常に安い学費で来られる。今、滋賀大学でもそうだが、大体、留学生は最初に日本に来て日本語学校で1年ぐらい学ぶ。その人たちは何をするかという、日本国内で就職する人が結構増えて、高度人材の採用につながっている。決してそのまま工場で働く人たちではないけれど、いろんな人たちとの接点がそういった日本語学校の中でできてくる。観光にもその人たちがいろんな接点を持てるだろうということで、日本語学校はどうかという意見をここに入れた。その中の延長線上で、それによって人材が入ってくるとか、そういう仕組みになってほしいということまでは言っていないので、多分、書き方の仕方だと思う。
- ・ただ、ここにはいろいろな言葉使いがあり、未整理の部分があるので、そこを重点的に議論せずに、この項目が本当に必要かどうかというところ、とくに実施プランの部分を見てもらい、実際のところどうなのか考えてほしい。
- ・また、実施プランの24ページにいろいろなチェック項目があるが、個人的には、これはもう一度見直したほうが良いと思う。なぜかという、例えば「企業進出や定着のための規制緩和、インフラ整備」の中で、「付加価値額」が果たしてこれは適切な指標なのかとか、あるいは海外事業展開のところで、「工業技術センターの技術相談」が果たしていいのかとか、いろいろな問題はあろうと思う。そういう細かいところはもう一度再点検するので、もう少し大きなところを皆さんで見てもらい、もう少し付け加えたほうが良いことがあれば、お願いしたい。
- ・基本的に、基本ビジョンは5つで、これは前回の会議で一応合意してもらった項目なので、その次の「具体的な施策」の部分と「実施プラン」は、まだ修正できる。

- ・前回、委員から「大阪万博」のことを少し入れたらどうかという意見があった。例えば、観光で、万博には確かにたくさんの人がある。今、『スカーレット』の経済効果が湖南省でどれだけ現れているかはわからないが、万博に向けてこの5年間のうちに、いろんな設備を準備したりすれば、その効果がみえてくる可能性はあると思う。

(委員)

- ・大阪万博に対する各市町村のスタンスはさまざまで、ノータッチというところもあるし、積極的に関与していくというところもあっていろいろだと思う。万博との関与が湖南省の中で明確に政策として、今後、やっていくというようになっているのなら明記したらいいし、そこはまだどうなるかわからないというのであれば書く必要もない。ぜひ、書いてくださいという意味ではない。
- ・それとは別話で、この5つの基本ビジョンが、実は一番、重要なポイントだと思っていて、具体的に絵が見えているものと、迷っているというものがあるが、経済的インパクトからすると、「基本ビジョンの2」がメインだと思う。湖南省はものづくりの市だから、ここでいろんなイノベーションが起こっていくと、市の付加価値がぐっと上がっていくと思っている。もちろんそれ以外のビジョンも大事だが。
- ・基本ビジョンの2は、「地域内企業の連携強化と起業・第二創業支援」をやっていくということだが、文章を読んでいると、誰と誰をどうつないで、どんな絵姿にしていきたいのかが見えない。読んでいると、中間製品をつくっている企業が多いので、最終ブランドや商品づくりにまで持っていくように読めて、それを目指していくのか、そのための連携というのは、どんなイメージなのかいくつか疑問がある。以前、市の担当者といろいろ話をしたとき、「ここは難しいんです」という話があって、迷っているのだろう、悩んでいるのだろうと思いながら読んでいた。どこまで書いていくかを考えなくてはいけない。
- ・現時点でこんな連携をやっていききたいというのがあれば教えてほしい。ものづくり同士の連携、最終製品をつくるような製販連携みたいなイメージもある。それから、「湖南ブランド」と書いてあるのは6次産業のことかと思ったが、でもそれは後ろにも書いてある。市内外からの起業者を受け入れて、地域課題とくっ付けていくという連携もあって、全体ではつまり連携促進していくというという結びになっている。ここはどう書けばいいかが難しい。私もよくわかっていないが、ものづくり同士の連携だと、例えば、サプライチェーンをもっと強固なものにしていくという中小企業庁の方針があるので、むしろそれをはっきりと書いてもいいのかと思う。中間財メーカーや加工メーカーがあるし、素材メーカーもある、中間の加工をしている企業もあって、それらが連携してサプライチェーンをしっかりと組んで、いうならば一つの工場をつくる。湖南省に持っていったら、ここからここまでの分は加工

してくれるし、ものをつくってくれるというのを書いて、それを最終商品に持っていきますみたいなところを書く。もしもネタがないのなら少し弱めるとか、さらっと書くとか、そんな強弱が要ると思う。連携という言葉の中で、何かベタッとしたイメージに思ったのが1点目。

- ・それから「基本ビジョンの5」。ここもなかなか課題、問題が多いところだが、「働き方改革やワーク・ライフ・バランスといった職場環境づくりを推進します」というように書いてあって、確かに必要だが、これも先のジェトロの活用と同じで、企業がやればいい話。この働き方改革とかワーク・ライフ・バランスに対して、行政としてこんな政策を打っていくというのがとくになければ、企業がやることなので書かなくてもいいと思う。基本ビジョンについてはその2点が気になった。

(議長)

- ・ありがとうございます。少し私のほうから修正をお願いしたい。「実施プランの1」ののだが、実施主体で各機関を想定しているが、例えば、湖南省や商工会は入るだろうと思うが、国や滋賀県が実施主体になれるか、あるいは滋賀大学が湖南省で実施主体としてできるかといわれると難しいというところがあると思う。湖南省にかかわる部分の実施主体と、協力を求める機関を明確に分けて組み立てをしていかないと、誰が何をするかというところが明確にならないと思った。
- ・次にビジョンのところは14ページだが、「地域特性を生かした湖南省型産業モデルの創出」とあるが、「地域の自然環境、社会環境、産業環境などの地域特性を活かし、域内消費の拡大と域外からの人やモノ、資本などの流入増という仕組みをつくり、地域内経済循環の向上を図るといって湖南省型産業モデルの創出を目指します」と書いてあるが非常にわかりづらい。「湖南省型産業モデル」という名前をつけるのはいいが、一体、そこにどんな特徴があるのかわからない。6次産業化をある程度優先してやるとか、これから小学校がIT化していくが、ITやIoTとかの分野をどう活かしていくかというところをもっと明確に入れていって、それを各機関がどう活かしていくかとか、そういうモデルを入れておいたら、それが湖南省の産業モデルというようになるのではないかと。湖南省産業モデルとか、湖南省モデルというキーワードが出てくるが、非常に不明瞭である。言葉を入れていくのはいいが、明確に何かを重点的に行うというところが必要だと思う。
- ・5つのビジョンがあり、最後の25ページに、重点プロジェクトがあって、このビジョンを特に重点的に取り組むプロジェクトとして、3つを仮に設定したと先ほど説明があった。3つが適切かどうかかわからないが、5つのビジョンの中でこのビジョンを優先的にやろうと進めていって、5年後にもう一回見直す。そういう組み立てをしたほうが実際にやるほうからすると、むしろ進みやすいと思うが、いかがですか。

(委員)

- ・重点プロジェクトはあったほうがいいのか疑問だ。「第5章 重点プロジェクト」というように振興ビジョンの一つの章をなしているが、私はなくてもいいんじゃないかと思う。

(議長)

- ・あってもいいし、なくてもいいというところだが、私の意見としては、これを5つのビジョンの中で優先順位をつけながら、例えば3つを優先してやりましょうというほうが、むしろ進みやすいという気がする。5つを並行して進めるというよりは、3つを重点的に先に進めていったほうが動きやすいのではないかという意見だ。

(委員)

- ・ここでいうプロジェクトは、この実施プランとは違うのか。

(議長)

- ・この中のひとつの項目として抜き出していくという感じ。例えば、海外事業の展開を強化しようというところを抜き出すとか、SDGsの視点に立った起業支援をするというのを抜き出すとか、どれかを抜き出しながらやるほうが進みやすいというのが私の考え。いや、5つを並行的にやろうという話になれば、この重点プロジェクトは要らないと思う。いかがでしょうか。

(委員)

- ・最終的には議長と事務局の方に任せたいと思っているが、もう少し大きな括りになるかと思っている。例えば、ビジョン1は企業誘致とその環境整備をやるというように掲げてある。その中でもまず優先されるのは、やはり用地の確保とかマーケットサウンディングみたいなこととか、インフラ整備みたいなものがあって、どんな企業を呼んでこようかとなって、具体的に整備という手順がある。その最初の部分を大きな括りで書いて、具体の実施プランは“ここに書いてあるとおり”というようにするならば、いろんなフェーズがある中で、“まず、これをやるんだ”というのが見えるが、読んでみると、「湖南市企業ガイド」をつくってマッチングに使うみたいな、すごく具体的なことが書いてあって、これは一つの章をなすのかという違和感がある。
- ・最終的には任せるが、もうちょっと大きな括りで書いてもいいと思う。まず、これをやるんだというような、例えば財政との絡みで書きたいならば、実施プランに「ま

ずやること」みたいな感じではっきりと書くとか、そういうほうがすっきりする気がする。

(議長)

- ・残り時間が少ないが、他の委員はいかがでしょうか。何か意見はありませんか。

(委員)

- ・基本的なところで、例えば10年後に、これらの中の何が本当にできるんだろうかという疑問がある。もう少し何か具体的なことで、“これをやるぞ”みたいなことが見えると、そのほうが市のためになるのではと思う。

(議長)

- ・ありがとうございます。他の委員はいかがでしょうか。

(委員)

- ・市が向かっていく方向はいろいろあると思うが、本当にこれが全部実施できたらそれは素晴らしいこと。逆に、市から何ができるかというのを具体案としてもらい、こちらで精査するというのもひとつの方法かと思う。

(議長)

- ・他の委員はいかがでしょうか。

(委員)

- ・25ページには計画が10年計画になっていて、そして最後の年に見直しがある。それと進捗評価指標があって、ここにはチェックを行いますと書いてあるが、どういう形でチェックをするのかが私にはみえない。これを例えば、議会に報告して、議会ではそういうことをするのか。また、データを修正するようなことも書かれているので、同じような疑問を持った。以上です。

(議長)

- ・副議長、いかがでしょうか。

(委員)

- ・私が日頃、勉強している分野に一番近いのは、ビジョン4の「市・農商工+観光で取り組む地域資源の活用と創造」。最初に、産業ツーリズムや工場見学ツアーなどが挙げられているが、多くの場合、工場見学となると小学校、中学校、高校の生徒、

児童が安全な状態で見られる生産工程に行って勉強して帰っていく。それでは、具体的な施策のところを書いてある観光消費というのが発生しないことが多いので、観光消費が発生する大人向けの工場見学ツアーというのはどんなものだろう。具体的に商品をイメージしながらプランを立てると、もう少しわかりやすかったと思うし、実現可能性なども含めて、他の委員さんがいろいろ頭を使い検討できたと思う。

- ・それから農業関連のところだが、RESAS（リーサス）の分析で周りの市町に比べて農業産出額が低い、でも米の割合が高いと書いてある。米づくりの農業から多様な付加価値作物への転換、例えば園芸・果樹と書いてある。しかし、その園芸・果樹というのは具体的にどういう作物が選択されるのだろうと誰しも思うところだが、そこが見えにくい。「転換」といわれても、これは何か具体的な作物がイメージされてのことなのか。

(委託事業者)

- ・これはとくにイメージして書いているわけではない。抽象的な書き方で申しわけない。

(委員)

- ・例えば、私が暮らしている彦根市は、JAの中にある果樹の生産組合で数年前から梨をつくりはじめ、木で完熟させて売る。ここ数年、突然人気が出て、出荷シーズンになると、湖岸道路がすごく渋滞するぐらいになっている。ある意味、特産品といってもいいぐらいになってきている。そういうことが想定されていると、「転換」ということがもう少し理解しやすかったと思う。

(議長)

- ・ありがとうございます。多分、「下田なす」とか「弥平とうがらし」というところがある。6次産業化の部分は、農家が「弥平とうがらし」とかをやるときに工場と協力しながらやりますという感じに書けばいいと思うが、工場の何とかという主語で書くからわかりづらいと思う。書き方の修正とかを含めてもう一度この内容を精査、整理して、皆さんに出すほうがいいと考えている。

(委員)

- ・もう1点だけ追加で、湖南省の農業は米づくりが中心ということだが、湖南省の中で栽培されている「みずかがみ」の割合は分かるのか。農家のどれぐらいが「みずかがみ」を栽培しているのかを教えてほしい。次に生産額が高いのは畜産。リーサスの分析によると肉用牛だが、これが交雑種ではなくて和牛なのかどうか、つまり

近江牛なのかどうか。

(委員)

- ・近江牛です。

(事務局)

- ・湖南省は1カ所だけなので、それは調べたら分かります。

(委員)

- ・1形態だけで近江牛を飼われているということか。

(事務局)

- ・確認させていただきたい。「みずかがみ」の件も調べれば分かると思う。

(委員)

- ・はい、お願いします。

(議長)

- ・ありがとうございます。この計画自体が、今年度から来年度に向けて、これから期間10年という形で進んでいく。前期、後期で5年間ずつに分けて、最終年度に見直しという形で少し長期的な計画になるので、あまり具体的に何かをやるというのをこのプランの中には入れられないと思う。それぞれ短期的にみていって、年度、年度でどのような進捗をしていくかというところは、市のほうで施策として具体的に進めていく。それは関係機関と一緒にやっていくという形をとると思う。
- ・あとは、ここに書かれた5つのビジョンのところに、それぞれの関係機関に協力してもらいながら進めていくということになるので、決して湖南省だけがやるというビジョンではないので、その辺を確認していくという点が必要だと思う。
- ・中身については、市と委託事業者で整理し、私どももできるだけ協力しながらもう一回精査して、もう少しわかりやすい形を出していこうと思う。この会議の回数がもう1回増えるかもしれないが、その間にもう少し皆さんの意見も入れながら追加、修正し、次回、送らせていただく資料については、皆さんのほうでもう一度確認していただいて、皆さんでつくり上げるという形でやりたいと思うので、ご協力をお願いしたい。
- ・また、24ページのところに進捗指標の項目が入っているが、これに基づいてやるということなので、この項目が間違っているとチェックしづらいところがあるので、これも副議長や私、委託事業者と協力しながら、もう一度選んでいくので、

- よろしく申し上げます。そういう進め方をさせていただいてよろしいでしょうか。
- ・最後に何か言いたいことがあれば、いかがでしょうか。
 - ・追加で市のほうからご報告やご意見はありますか。
 - ・では、以上をもちまして、本日の議題を終了させていただきたいと思います。今後、皆さんには少し負担をかけると思いますが、ぜひご協力いただき、このビジョンをいいものにしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

5. 閉会

(商工観光労政課)

以 上